

19名の MCLS 患者である。日本医大、大國等の方法により測定した ASP と検策し得た ASO, ASK と対比し、また年齢、病週との関係もみた。

### III. 結 果

ASP 陽性者を 128 倍以上としたところ、19 例中 7 例 (36.8%) の陽性者をみた。また年齢との関係は高年齢になるにしたがい高値を示す傾向があり、危険率  $< 0.10$  とわずかながら相関をみた(図 1)。測定し得た ASO は全て正常値であり ASP との間に特に相関はみられなかった(図 2)。ASK は 1 例に 5120 と高値をみたが、同

様に相関はみられなかった(図 3)。病週毎の ASP も特に差はみられなかった(図 4)。

### IV. 結 論

今回溶連菌菌体成分の一つである C-多糖体を抗原として MCLS 患者血清中の ASP を測定した所、19 例中 7 例 (36.8%) に陽性者を認めた。これは全ての例であるとは云えないにせよ MCLS と溶連菌感染との関係を示唆しうるものであり、さらに経過を追っての観察が必要であり、今後症例を増し検討する予定である。

## MCLS 患者血清のダニ特異的抗体産生に関する研究

— RAST 法による —

日大小児科 大 国 真 彦  
吉 川 弘 二  
石 原 博 道

### I. 研究目的

MCLS 患者が家ダニの感作を受け、ダニに対する特異的抗体を産生するかどうかを検査した。

### II. 方 法

Pharmacia 社製 S-8543 (RAST) を用いた。測定結果は 5 段階に分け、検体のカウント比を同時に測定する Reference シリーズのカウント比と比較して結果を出した。

ダニは RAST キットに使用されている *Dermatophagoides farinae* と *Dermatophagoides pteronyssinus* の 2 種の抗原を使用し、検体のすべて Duplicate にて測定し、その平均値で判定した。

### III. 対 象

発病時の年齢が 11 か月から 6 才までの MCLS 患者 18 例で、急性期と回復期に採血し得たもの 9 例、急性期のみ、又は回復期のみ採血したもの 9 例である。急性期はすべて入院時で諸症状のそろっている時期で 6 病日まで、回復期は症状(主に皮膚症状)の変化と、白血球数、

CRP、赤沈のいずれかがよくなってきた時期で 9 病日以後である。

### IV. 成 績

急性期、回復期 pair で調べた 9 例では、急性期、回復期、両抗原とも陰性、どちらか一方しか調べ得なかった 9 例でもすべて陰性であった。9 例の急性期と回復期の pair 血清において、両期のアイソトープカウント数の変動を検討したが有意にとれるものは見つけ得なかった。

又、急性期 MCLS 患者 5 例に *Dermatophagoides farinae* にて scratch 及び skin test を施行しすべて陰性であった。

### V. 考案および結論

即時型(アトピー性又はアナフィラキシー性の)アレルギー患者では、症状を誘発する特異アレルゲンにさらされるとすぐ症状を誘発する。これはレアゲンと呼ばれる血清中特異抗体の機能によるものである。近年 radio-allergosorbent test (RAST) の開発により、特異的な IgE 抗体の測定が可能になった。

MCLS には種々病因論が考えられ研究されているが、確立されてはいない。今回我々はリケッチアに関して、リケッチアはダニの単体であるということに注目し、MCLS 患者血清中のダニ特異的抗体の有無を検討した。

成績より、ダニ特異的抗体の産生を示唆するものは得られなかった。すなわち、MCLS の諸症状は、家ダニの感作による即時型アレルギー反応であるということは否定的であると思われる。

## 免疫複合体の検出とその抗原物質同定の試み

東邦大小児科 矢 田 純 一  
 沢 文 博  
 東京女子医大第二病院小児科 草 川 三 治  
 浅 井 利 夫

### I. 目 的

免疫複合体はしばしば血管炎の成因となることが知られている。MCLS において血管炎が臨床上的重要な問題となっていることを考えると、MCLS における免疫複合体の意義を追求する必要がある。また、免疫複合体が検出された場合、その抗原部分が何であるかを同定できれば病因の解明に重要な手掛りを与えるであろう。このような観点から MCLS 患者血清中の免疫複合体の検出とその臨床経過との相関を検討し、また予想される抗原についてそれが免疫複合体中に証明されるかどうかの検出の試みを行った。

### II. 方 法

補体に対する receptor をもつ培養細胞株 Raji cell に被験血清を反応させ、免疫複合体を Raji cell の補体 receptor に結合させる。結合した免疫グロブリンの抗体

表 1 MCLS の病日と血清免疫複合体 (76例)

病 日 (日)	免 疫 複 合 抗 価		平均値
	16倍以上の例	64倍以上の例	
	全 例 数	全 例 数	
~10	29/41 (71%)	4/41 (10%)	26.5
~20	19/27 (70%)	5/27 (19%)	31.8
~30	24/31 (77%)	11/31 (35%)	42.6
~40	12/20 (60%)	5/20 (25%)	26.4
~50	6/10 (60%)	0/10	13.5
~60	4/6 (67%)	0/6	15.3

部分を抗ヒト免疫グロブリン蛍光抗体で染色し、免疫複合体の有無を調べる。免疫複合体が存在すれば Raji cell 陽性に染色される。被験血清を倍数希釈し染色される終末希釈を求めれば血清中の免疫複合体量を定量的に測定することができる。終末点となる血清希釈倍数をも

表 2 免疫複合体の抗原物質同定の試み

検体 No.		1	2	3	4	5	6			
溶 抗	グ ル ー プ	A {1 2 3	—	(+)	(+)	—	—			
		B	—	—	—	—	—			
		C	—	—	—	—	—			
		G	—	—	—	—	—			
		E	—	—	—	—	—			
連 血	T 蛋 白	1	—	—	—	—	—			
		3 {1 2	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)			
		4	—	—	—	—	—			
		12	—	—	—	—	—			
		28	—	—	—	—	—			
菌 清	M 蛋 白	1	—	—	—	—	—			
		3	—	—	—	—	—			
		4	—	—	—	—	—			
		6	—	—	—	—	—			
		28	—	—	—	—	—			
検体 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9
リチ ケ ッ	抗 血 清	mooseri	—	—	—	—	—	—	—	—
		tsutsugamusi	—	—	—	—	—	—	—	

( ) 他の抗血清では陰性なので偽陽性と考えられる。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

## 1. 研究目的

MCLS 患者が家ダニの感作を受け,ダニに対する特異的抗体を産生するかどうかを検査した。